

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	The time from diagnostic excision biopsy to wide local excision for primary cutaneous malignant melanoma may not affect patient survival.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ7-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	12100184	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	147	
	号	1	
	ページ	48-54	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2002 Jul	
	著者情報		氏名
筆頭著者		McKenna DB	Department of Dermatology, Royal Infirmary of Edinburgh, Scotland, UK.
その他著者 1		Doherty VR	同上
その他著者 2		Lee RJ	Medical Statistics Unit, University of Edinburgh, Scotland, UK.
その他著者 3		Prescott RJ	同上
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	生存率や再発率が、診断のための生検と拡大切除までの時間に影響をうけるか検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Scottish Melanoma Group database	
	対象者	1979 から 1997 までに全摘生検と拡大切除を受けた 986 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	生検から切除までが 14 日未満、15 から 28 日、29 日から 42 日、43 日から 91 日、92 日以上	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	全生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	無病生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3	無再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	切除生検時の平均年齢は 47.4 歳でフォローアップ期間の中央値は 5 年であった。生検から切除までの期間の中央値は 30 日であり、期間が長いほど高齢で、厚さが薄く、頭頸部病変の割合が増え、表在拡大型の割合が減り、潰瘍を有していなかった。 単変量解析では生検から切除までの各期間群間で、全生存率（$p=0.60$）と無病生存率（$p=0.24$）の有意差は認められなかった。 無再発率に関して設定した群の間で有意差が見られた（29 日から 42 日、43 日から 91 日で良好であった $p=0.011$）が、年齢・性別・tumor thickness などを調整すると、全生存率、無病生存率、無再発率に統計学的に有意な差は見られなかった（$p=0.88$、$p=0.44$、$p=0.084$）。	
	結論	生存率や再発率が、診断のための生検と拡大切除までの時間に影響をうけるという証拠は得られなかった。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ）